3月分市況報告書　　報告者　中島良晴

調査日　群馬県森林組合連合会共販所　3月6日

今回の市も県森連　素生協とも同じ日に開催された。

今回は県森連の方を優先して見に行った。

前回とは逆に13:00締め切りの県森連の市に札だけ入れて、すぐに14:00の締め切りに間に合うように鬼石へ向かう買い方が何名か居いた。

「買い漏らすまい」 と言うよりは、「片方だけに顔を出す訳には行かない」との事だった。

かつては群馬県内に6か所あった原木市場が、今では素生協と県森連の2か所になってしまった。

それだけに両方に平均して重心を置かなければならないのかも知れない

市況は杉の3.0mに相変わらず応札が集まっている。 4mの中目材と尺上材に空欄や不落札が目立つ中で4枚・5枚と激しく競合いが展開されているのは3.0mだけである。

但し　落札価格は少し下げの模様だ。一番札がやや下げ気味だとすると4番札はいくらだったのか？

次の素生協の結果も見ないと何とも言えない所だが、3.0mは早くも頭打ちの気配がある。

「素生協の市場には、3.0mが大量に入荷している」との情報もあった。

買い方同士の話を聞いていると、どうも値を下げながら競り合っている景色がうかがえる。

「仕入れを抑えたいが、少し下げると僅かな差で負けてしまう。」と言う。1番札も下げ気味なのにである。

この言葉は4.0mの角材用丸太(16cm～20cm)について言われていた言葉だが、3.0mでも同じことが起こっていると見て良いだろう。 ここで言う僅かな差と言うのは1,000以内の誤差で、これは多分に買い方の癖のようなものが出た結果である。 入札書に単価を書くとき、末尾の3桁くらいは感覚で書いている場合が多い。 この時、入札の末尾は10円留めなので最後に10円を付ける人がいる。

100円留めで入った札を、10円だけ超えてやろう。と言う考えだが、この辺りはもう戦略と言うよりは癖である。 更にそうした札を出し抜く為に20円を付ける人も居る。

その他縁起を担いで末広がりの80円を付ける人も多い。

1番札は発表されるので元より判るが、2番札は下3桁で誰が入れたかが判る事が良くある。

3．0mに札が集まるのは、住宅着工数が増えた為と思いがちだが、単に暫く市場から姿を消していたからだけらしい。着工数は増えてなどいないそうだ。

もし素生協に3．0mの出荷が増えているとすれば、市況の変化に素早く反応できる素材生産業者ならではの事だろう。 素材生産を主たる生業とするか、森林整備を生業とするかの違いなのか？

いずれにしても3.0mの売れ足が止まる前に、こまめに軌道修正を図るのが得策と考える。

今はスギの4.0m材は16cm～20cmの**角材用丸太**は売れる。 この寸法は柱につれて需要が動くが今は出荷量が少ない。 但し必要量は柱の需要の3割程度（つまり柱3本の頭を繋ぐ桁材用）

4.0mの中目材は主に板類を挽くので用途が全く違い、今は人気が薄い。

調査日　素材生産協同組合　3月7日

本日の素生協の市は”梅花祭り市”と銘打って開催された。

前回市から余り日が無かった事や、山土場の雪による影響、更には年度末に近づき国有林材が止まった事などで、出品量は少なかった。

雪の事も暖冬の影響が悪く出てしまっている。 例年であれば雪が降っても、地面が凍ってさえいれば足元が固まり、それほど深刻にはならない。 春が近づき足元の氷が融け出すと、ぬかるんで始末が悪くなるものだが、今年は降った雪がほとんど凍ることなく作業の支障になっていると考えられる。

今回の市では広葉樹はほとんど整理が付いていた。 広葉樹で売れ残る物は本当に使い道が無く売れる要素が無い。 溜まってしまっていた売れ残りの広葉樹も、チップ用材として一掃されたらしい。

最近　伐採現場をいくつか回ってみると、皆伐された上に抜根まで搬出されている現場をよく見かける。

バイオマス発電所の燃料が不足しており、根を掘り出してでも採算が合う位に値上がりしていると言う。

聞けば(私の不勉強もあるのだが)あまり聞いたことが無いバイオマス発電所の名前がドンドン出てくる。

バイオマス燃料用の伐採は、道路沿いなどに残してあった、通称”端っ木(ハタッキ)”と呼ばれる巨木から根っこに至るまで、文字通り根こそぎ搬出している。 それでも全く足りないのだそうだ。

「次に植林するとき地拵えが楽になる」と言われて見回すと、なるほど集積された抜根の山には枝に至るまで積上げられていた。 バイオマス発電所の燃料不足の深刻さが窺えた。

しかし　伐採跡の切り株には、次世代の植林木が根を張るまで、しっかりと地盤を安定させておく大事な役目がある筈なのだ。 のっぺらぼうの伐採跡地を見ると、木材を燃料として使う事の限界が見えているような気がしてならない。この木を植えた人は、将来燃料になるとは思ってもいなかった筈だ。

さて横道にそれたが、市の方はと言えば出品量こそ少なかったが、売れ筋の材種と、そうでない物が別れているように思う。 県森連の市で懸念された3.0m材の動きは、まだもう少し動きそうだが、やはり買い気が下がりつつある様だ。 こちらの市場では応札枚数が判らないが、ほぼ同じ単価で流し入札した加工協同組合が落札しているところを見ると、余り競争は無かったと思われる。

同じ事象が2.0m材にも見える。 6,520円/㎥均一で流し入札した白山製材が総取の形で落札している。

これも競争が無かった1枚札と言われる形だ。 これに対して359号の物件などは、安いながらも角材用の4.0mが1件だけだったので、複数枚の応札があったのではないか？

その他　合板用に使えるヒノキの2.0mやカラ松などは、しっかりした得意先を持つ買い方が、まともな価格で落札している。